

平成25年4月26日  
中国電力株式会社

## 平成24年度決算会見 社長あいさつ

本日は「平成24年度 決算」について発表させていただきます。

詳細は後ほど担当役員からご説明いたしますが、最初に私から概要をお話しさせていただきます。

### <平成24年度決算の概要>

平成24年度決算は、一言で申し上げますと、連結、個別ともに「増収・減益」となりました。

売上高につきましては、販売電力量は前年度に比べて減少したものの、燃料費調整制度の影響などにより電気料金収入が増加したことなどから、連結ベースで、前年度に比べて183億円の増収となりました。

一方、経常利益につきましては、当初計画である200億円を上回る320億円の経営効率化を達成したものの、島根原子力発電所の運転停止による原料費の大幅な増加などから営業費用が増加した結果、連結ベースで586億円の減益となり、287億円の経常損失となりました。

24年度は年間を通じて島根原子力発電所が稼働しておらず、その影響は、通常運転時に比べると、年間で約1,200億円の燃料費の増加という大変大きなものであり、全社を挙げて経営全般にわたる効率化に取り組んだものの、これを吸収することは困難であり、大変厳しい決算となったと受け止めております。

### <平成25年度業績予想>

続いて、平成25年度の業績見通しについてお話しいたします。

平成25年度の売上高につきましては、1兆2,310億円と想定しておりますが、原子力の再稼働時期を具体的に見通すことができず、費用を合理的に予想することが困難であることから、営業利益、経常利益ならびに当期純利益とも「未定」としております。

また、こうした状況から、配当についても現時点では「未定」としています。

島根原子力発電所の運転停止が続けば、収支は大変厳しいものとなると考えておりますが、平成25年度におきましては、3月末に発表した経営計画でお示ししておりますとおり、安定供給や安全に配慮しつつ、施策の中止・繰り延べ・規模縮小など、緊急避難的なコスト削減にも踏み込むことにより、560億円程度の効率化を行うこととしております。

こうした全社を挙げた最大限の効率化に努めることで、できる限り現行の料金水準を維持し、お客さまのご負担を増やすことのないよう努めてまいりたいと考えております。

#### <島根原子力発電所の安全対策，再稼働>

島根原子力発電所の再稼働・運転開始につきましては、先般、原子力規制委員会から、新規制基準の条文案が公表され、今後、パブリックコメントを経て、夏頃の施行が予定されていますが、当社といたしましては、引き続き、各種安全対策を早期かつ確実に実施し、安全性を確保することが第一義であると考えております。

先日、お知らせしましたとおり、島根 2 号機、3 号機へのフィルタ付ベント設備の設置につきましては、5 月初旬に本体工事に着手すべく、鋭意準備を進めております。現状では、平成 26 年度中に設置を完了する予定としていますが、工事工程の工夫などにより、できる限り早期に設置したいと考えております。また、免震重要棟につきましても、平成 26 年度内の運用開始を目指し、鋭意工事を進めているところでございます。

先ほども申し上げましたとおり、現時点で再稼働の見通しを具体的にお示しできる状況ではありませんが、引き続き、世界最高水準の安全性を目指し、新規制基準を先取りする形で取り組んでまいり所存です。

#### <終わりに／今夏需給>

最後に、今年の夏の電力需給についてですが、本日、国の電力需給に関する検討会合において、現在定着している節電の取り組みが無理のない形で確実に行われるよう「数値目標を伴わない節電」を要請することが決定されました。

当社におきましては、一定の予備力は確保できる見通しではありますが、これは、高経年の火力発電所が順調に稼働することを前提としたものであり、昨年の夏と同様に、大きなトラブルなく安定的に運転を行えるよう、改めて、気を引き締めて取り組んでまいり所存です。

以 上